

ご先祖様をお迎えする大切なときです。

お盆のおつとめ





お盆は、ご先祖様のあの世での「冥福を祈り、
私たちが今生きていることへの
感謝の心をもつ時です。

**お盆の行事は
目蓮の故事に由来します**

お盆は 正しくは「盂蘭盆会」といいます。
梵語でウラバンナ（逆さづりにされたよう
な苦しみ）といい、「盂蘭盆会」はその音が転
じて、略してお盆というようになったとい
われています。

そもそもこの行事は お釈迦さまのお弟子



の目蓮尊者が 亡くなったお母様が餓鬼の
世界で生まれ変わり苦しんでいるのを知り
なんとか救おうとその母へ食物を与えるの
ですが救われず お釈迦様のお導きで、多
くの衆僧を招いてご供養の大布施行を捧げ
たところ、餓鬼の苦しみからのがれること
ができたという。その日が七月十五日であ
ったという故事から、この期間に ご先祖
の霊をわが家に迎えてご供養を捧げ また、

仏様の浄土に送り返す「盂蘭盆会」の行事が
行われるようになったといわれます。

お盆の時期

一般的には 七月十日を「迎え盆」お盆の
入りとして十六日「送り盆」までの四日間に
お盆の行事が行われます。おもに関東では
旧暦の七月十五日、関西では月遅れの八月
十五日を中心にお盆を行います。

お盆のご準備

お盆は ご先祖や亡くなった人たちの霊が
年一度家に戻ってくるといわれ 各家
では 十日の朝には まずお仏壇をきれ
いにし精霊棚を作ります。

この精霊棚は 迎え火を焚く前に お仏
壇の前や縁先などに飾ります。精霊棚は
台の上に真菰藁を敷いて作ります。棚の奥
中央に ご先祖様のお位牌を安置します。
お位牌の前に おがら（麻の皮をはいた茎）
か割り箸で四本の足をつけた牛や
きゅうりの馬なども飾ります。これはご先
祖の霊が牛に荷を引かせ 馬に乗ってきた
り また帰っていくという言い伝えによる
ものです。

そのほか 香・花・灯明・浄水・盛物・果
物・野菜・そうめん・餅・団子・故人の好
きだった物を供えます。



これとは別に、なす・きゅうりをサイの目に切り、洗った米をまぜたものを蓮の葉の上に盛り付けた、水の子と呼ばれるものも供えます。

部屋のスペースに余裕がない場合は、別に精霊棚を作らず、お仏壇のなかに盆飾りやお供え物をしてかまいません。

ご先祖様のお迎えとご供養の仕方

精霊棚の準備がととのつたら、お墓がある場合はお墓の掃除をすませて、夕方まで待つ。墓地に行かない場合は、自宅の門前で迎え火のおがらを焚いて、ご先祖の霊が家に戻ってくるために迷わぬよう道を明るくして迎えます。

盆提灯や盆灯籠は、ご先祖の霊を家にお迎えする際の目安になるものですから、お盆期間中はずっと仏前へ飾っておきます。

ご先祖の霊が家に戻りましたら、一般的には、十四日、十五日の朝・昼・晩の一回、精霊棚に食事を供え、お水も忘れずにかえつづね、線香と灯明もかかさず灯し、ご家庭で合掌礼拝をし、ご先祖様と共に過します。

お寺様が棚経にまわつてくれます。

お盆の期間中に、ご先祖の霊を丁寧に迎えず、お慰めして追善回向をしていただく

ために、地方によってはお寺様を招き読経をしてもらいます。精霊棚の前で読経するので、これを「棚経」といいます。

お寺様には、お経をあずけてもらいますから「お布施」を用意し、茶菓子などでもてなします。また、遠方から来ていただいた場合には、「お車代」を別に包みます。



送り火を焚いてご先祖様をお送りします

十五日夕方(地方によっては十六日夕方)に迎え火を焚いた場所と同じ所で送り火を焚き、ご先祖の霊をお送りします。この後も一度お墓参りをしますが、近くにお墓がない場合は、送り火だけですませるところもあります。たとえば、京都の大文字焼きも送り火の一種です。

ご先祖の霊をお送りした後、お供え物などを海に流します。しかし今日では、ご

先祖の霊が帰る日の夜かその翌日に行われることが多いようです。

これを「精霊流し」とか「灯籠流し」といって、お盆の間お供えした飾り物をご先祖の霊の土産として、わらやおがらなどで作った精霊舟・灯籠やロウソクを立てて、天上界へ送り出すのです。

しかし、現在は、や海の汚染問題から、焼却せざるをえない所も多くなっているようです。

新盆の迎え方

四十九日の忌明けの後、初めて迎えるお盆のことを「新盆」とか「初盆」といいます。

新盆のご供養は、特に行きに行きます。このときは、親族や故人と親しかった友人などをお招きし、お寺様に読経してもらい、仏様のご供養の意味で参会者全員で食事をします。

故人の忌明けより前にお盆を迎えた時は、その年だけでなく翌年が新盆となります。

なお、お盆の時期はお寺様のもっとも忙しい時ですから、読経の依頼は、早めにお願ひしておきましょう。

※お盆の習慣は宗派や地方により異なります。詳しくはお寺様又は当店におたずねください。

明るくお迎えするお盆提灯

新盆には 親族などから盆提灯が贈られます。秋草模様などの絵柄のはいつたきれいなものは 毎年のお盆に使われますが、白張提灯は 新盆のときだけで、送り火で燃やしたり お寺様へ収めたりします。もともと盆提灯は お寺様からいただく迎え火、送り火を持ち運びや据えて置くの、便利ないように提灯をしたものです。お盆提灯を贈る時は、その家の家紋をいれ対するのが正式ですが、最近ではあまりこだわらなくなりました。

※お盆提灯は、地方や習慣により異なります。詳しくは当店におたずねください。

盆踊り

盆踊りは、今では夏のイベントの趣きが強くなってきましたが、もともとはお盆にもどってきた霊を慰め、無事、送り出すために始められた宗教的な行事でした。したがってその踊りの会場も、もとは寺の境内や墓地の近くの広場などで踊られていました。

しかし、最近ではその宗教的な意味ははじいこうすれて、大衆娯楽として発達するようになり、踊り様式も地方によって、また時代によって変化してきました。

※宗派及び地域習慣により作法等が異なる事があります。詳しくはお寺様又は当店にてお尋ねくださいませ。



◆全国優良仏壇専門店会加盟店◆

〈仏壇、仏具、神具、寺院用具、墓石〉

創業百余年
佛壇の升谷

本店 秋田市大町一丁目4-37
 仏壇・寺院用具 電話 018(824)3181
 石材部 秋田市寺内蛭根3-23-11
 〔墓石展示場〕 電話 018(863)8284

